会　報

2020～2021　R I 第2720地区

人吉ロータリークラブ

通 算 3 0 6 7 回
2020年10月30日
第 7 回 例 会

ロータリーは機会の扉を開く

2020-2021年度 R I 会長
ホルガー・クナーク

人吉市九日町30・清流山水花 あゆの里 ☎㉒2171　例会場　事務局　清流山水花 あゆの里内 ☎㉔6665 ㊡㉔6505

人吉ロータリークラブ ホームページ　フェイスブックページ　[E-mail] hitoyoshi-rc@mocha.ocn.ne.jp

2020～2021年度 人吉ロータリークラブテーマ

この仕合せ(めぐり合わせ、運命)に感謝し、より豊かな人生の扉を拓こう」

本日の進行

点　鐘	会務報告
国歌斉唱	ゴルフ表彰
ロータリーソング斉唱	新会員卓話
会長の時間	硯川ｶﾞﾊﾞﾅｰｱﾄﾞﾚｽ
幹事報告	DVD鑑賞
出席率報告	寄付カード
寄付の申し出	点　鐘

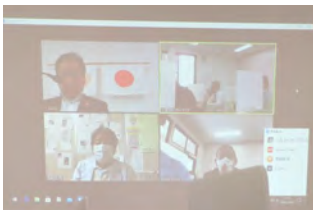
開催場所：人吉球磨自動車会館（ＺＯＯＭ）

点　　鐘　　葉山稔洋 会長

歌　　唱　　ｿﾝｸﾞﾘｰﾀﾞｰ 山田仁法委員

国 歌　「君が代」
Ｒ Ｓ　「我等の生業」

司会・進行　　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ　竹長一幸委員長



会長の時間

会長　葉山稔洋

皆さん、こんにちは、先週は環境保全委員会担当の早朝例会で、蓮池の周りの草取りして頂きありがとうございました。お陰様で綺麗になりました。明日奉賛会で池の底を浚うことになっておりますし、美化作業に精を出す皆さんの一助になる様、ロータリーの命のキッチンカーも出動しますので、会員そしてご婦人の皆様のご協力を是非お願をいたします。

それから土曜日には、球磨カントリークラブでゴルフ愛好会の第１戦と総会が田で開催されました。私も50周年の時に親睦委員長をまかされゴルフ愛好会歴14年目となりました。が、残念ながらその間１度もプレーした事がありません。今年こそは、１度ゴルフのコースに出てみたいと思っております。どうぞその時は、ご指導の程をよろしくお願いいたします。後ほど表彰もあるようです。参加された皆さんお楽しみに。

ところで、ガバナー面談の時に預かってきましたガバナーアドレスのDVDを今日と来週の２週にわたり鑑賞したいと思います。

次に９月18日第２例会の時に入会頂きました松山会員に新会員卓話をお願いしました。楽しみにしております。後ほどよろしくお願いします。

それから、今年度必ずやりたい事の一つに、という事を所信の中で申し上げましたが、どなたも覚えていらっしゃらないと思いますので、今一度申し上げます。

全会員に５分間(時間が足りないとお叱りを受けるかもしれませんが)　スピーチをお願いしたいと思っております。新会員卓話は、必ず行いますが、逆に新会員は、ベテラン会員の話を聞いたこともなく、人となりを知らず疎遠になっているのではないかと思います。そのきっかけ(機会・チャンス)の扉を開いて頂き、原点に返り親睦を更に深め 人生をより豊かなものにして頂きたいと思います。来月から早速でもありませんが、行ってゆきたいと思います。新会員と逆に暦年数の長い方から順次お声がかかると思いますので宜しくお願いいたします。

幹事報告

前々幹事　新堀純子

≪連絡事項≫

○荒尾RCより親睦ゴルフのご案内
11/28(土)懇親会11/29(日)ゴルフ➡運営委員会へ

○地区内クラブ例会のお知らせ
西天草RC　10/27より例会再開
熊本中央RC　11月より例会再開
熊本RC　〃

○当クラブ例会予定
11/6 職場訪問例会　(バス移動例会)
見学場所；人吉市災害廃棄物仮置き場
(人吉中核工業用地)

11/13、11/20　通常例会　昼
11/27　　親睦　ワインを楽しむ会（夫人も一緒に）
明日青井神社蓮池清掃へ人吉RCキッチンカーが出動します。11時～13時青井神社相撲場で行います。

出席率報告

委員　伊久美早利

現　会　員　数	52名	出席免除会員数	1名
欠　席　者　数	20名	**本日の出席率**	
出　席　者　数	31名	**60.78%**	
免除会員出席数	0名		

＊届け出欠席　青木・有馬・有村・浅野・後藤・春木・堀川
石蔵・岩下・川越・中村・中島・延岡・大賀
大久保・戸高・友永・外山・堤正・漆野
＊出席免除会員　(b) 愛甲

≪　寄付の申し出　≫

伊久美早利会員より「亡父会葬御礼」としてＲ財団、米山記念奨学会、人吉ＲＣ奨学基金委員会へご寄付がありました。

【ゴルフ愛好会】　委員長　新堀純子

葉山杯第１戦　表彰
10月24日（土）球磨ＣＣ
優　勝　浦田繁喜会員

【プログラム委員会】

新会員卓話

松山　茂人 会員
2020年9月18日入会
職業分類；電力供給
九州電力㈱人吉営業所

１．地球温暖化とエネルギー

近年、世界各地で異常な気温上昇や自然現象が報告されている

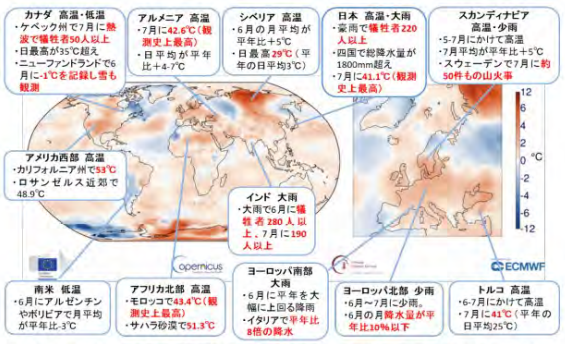
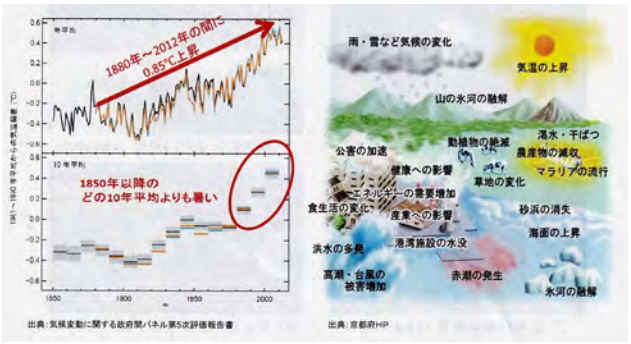


図 1.1　世界の異常気象（1981年-2010年の平均と比較した6月の平均気温差）

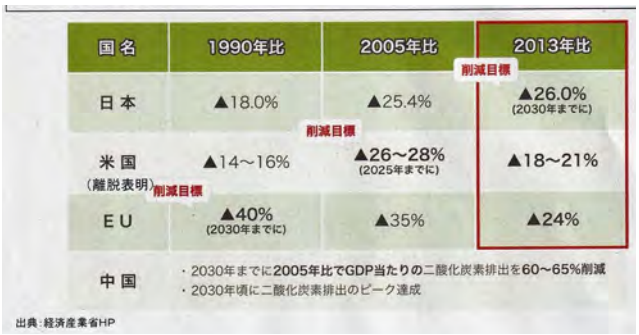
出典：WMO（記載内容はWMOの記事及び気象庁HPより抜粋）

地球温暖化とは
地球温暖化が進むと、猛暑や大雨などの異常気象が増加するなど、世界中の自然や暮らしに様々な影響が発生



温室効果ガスのうち最も量が多いC0２は、世界的に排出量が増加傾向、特に、中国やインドなど人口が多く、経済成長率の高い国の増加が顕著

地球温暖化防止に向けた枠組み
（パリ協定）
・京都議定書の後継となる、2020年以降の温室効果ガス排出削減に向けた国際的な枠組み（2016年11月発効）
・世界平均気温の上昇を産業革命以前に比べて1.5℃～2.0℃に抑えることを目標に各国が自主的に温室効果ガスの削減目標を設定
・2013年で比較した場合、日本の「2030年までに▲26%」という削減目標は、欧米と比べ野心的



国名	1990年比	2005年比	2013年比
日本	▲18.0%	▲25.4%	▲26.0%（2030年までに）
米国（離脱表明）	▲14～16%	▲26～28%（2025年までに）	▲18～21%
EU	▲40%（2030年までに）	▲35%	▲24%
中国	・2030年までに2005年比でGDP当たりの二酸化炭素排出を60～65%削減 ・2030年頃に二酸化炭素排出のピーク達成		

削減目標

出典：経済産業省HP

（ＳＤＧs）
・2015年の国連サミットにおいて、持続可能な社会の構築に向け、2030年までに取り組む国際社会共通の目標（＝ＳＤＧs）が定められ、気候変動対策やクリーンエネルギーの普及への関心が高まっている
・ＳＤＧsは、17のゴールと169のターゲットから

構成されており、先進国を含むすべての国に適用される普遍性が最大の特徴

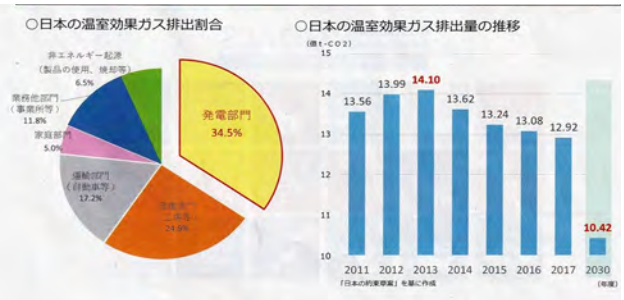
２．日本の電気事業における地球温暖化対策

日本の温室効果ガス排出量

・日本の温室効果ガス排出量のうち、最も多く占めるのは発電分野

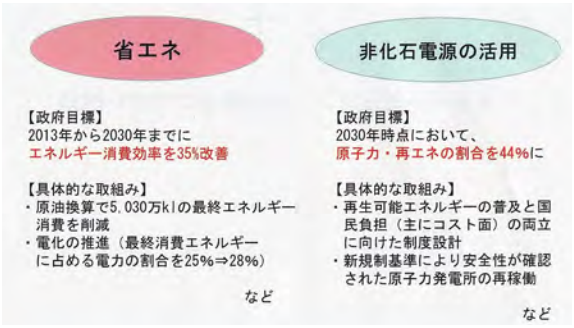
・発電分野のＣＯ２排出量は、2011年の東日本大震災後、全ての原子力発電所が停止したことにより、2013年度に過去最大を記録

・近年、省エネの進展や再エネの普及・原子力再稼働などにより非化石電源の割合が増えたことにより減少傾向



発電分野における地球温暖化対策

2030年までに温室効果ガス排出量を10.42億ｔまでに減らすためには、省エネのより一層の原子力・再エネなどの非化石電源の活用が不可欠



「電化」による脱炭素化

・温暖化を防止するためには、化石エネルギー(石油・石炭・天然ガス)から非化石エネルギー(原子力・再エネ)へのエネルギー転換が必要

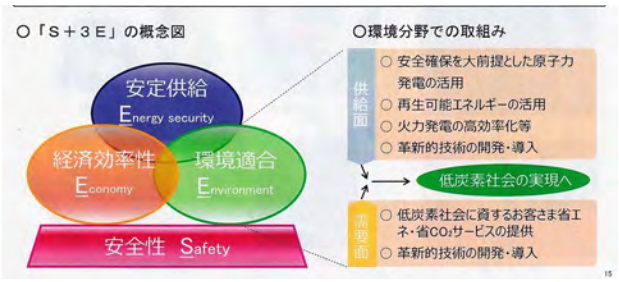
・非化石エネルギーの大部分は、「電気」に形を変えて消費されることから最終消費エネルギーに占める電気の割合（＝電化率）を上げることが脱炭素化に繋がる

３.エネルギーミックスとその実現に向けた課題

エネルギーについて考える視点(Ｓ+３Ｅ)

・我が国のエネルギー政策の基本方針は、エネルギー政策基本法（2002年）に基づき策定される「エネルギー基本計画」は規定

・現在の第５次エネルギー基本計画において、エネルギー政策の基本的な視点として、「Ｓ＋３Ｅ」（安全性 Safety、安定供給 Energy security、経済効率性 Economy、環境適合 Environment）の実現を目指すことが謳われている



安定供給

・資源の乏しい日本では、エネルギー自給率はわずか9.6%（OECD※36か国中34位）であり、資源の安定確保が長年の課題

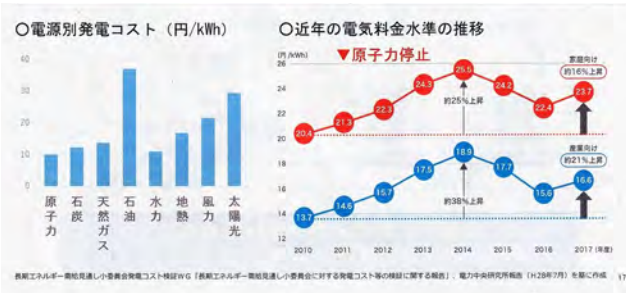
・エネルギー自給率の向上のためには、原子力、水力、再エネ等の（準）国産エネルギーの割合を増やすことが必要

経済効率性

・電気は日常生活や産業に深く根差したエネルギーであり、国民生活や経済への影響を考慮すると、低廉な価格で供給することが求められる

・なお、発電コストは電源により、1kWhあたり約10円から30円超と大きく開きがある

・東日本大震災を受けて、電力供給の約1/3を占めていた原子力を他の発電で代替したことにより電気料金水準が上昇



環境適合

・地球温暖化防止の観点から発電分野の低炭素化は重要

・温室効果ガス削減目標達成のためには、発電時にＣＯ２を排出しない、原子力、水力、再エネ等の割合を増やすことが必要

※上記の発電方法でも、発電時以外（設備の建設、保守･点検等）に一定のＣＯ２を排出

「同時同量」の達成

・電力の品質確保のためには、需要（＝電気の消費量）と供給（＝発電量）のバランスを取り、周波数を一定に保ち続けること、すなわち「同時同量」が必要

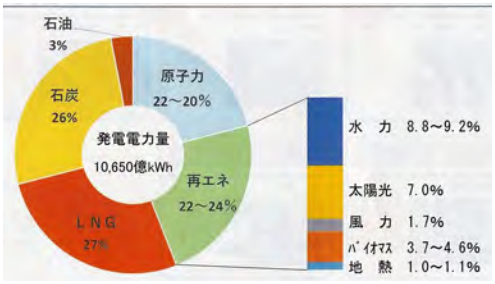
・このバランスが崩れると、多数の発電機が損壊を回避するため自動停止を繰り返し、最悪の場合、大規模停電に繋がるおそれ
（例. 2018年９月の北海道での広域停電）

「Ｓ+３Ｅ」、「同時同量」の視点から見た電源別特性（まとめ）

単一の電源だけで「Ｓ+３Ｅ」と「同時同量」を達成し、国内の電力需要を賄うことはできない

	原子力	火　力	水　力	太陽光、風力
安全性	社会的受容性については議論がある 新規制基準への適合や使用済燃料対策を進める必要がある			
安定供給	燃料のウランは備蓄効果が高く、再処理により再利用可能な準国産エネルギー	燃料の石炭、ＬＮＧ等は外国からの輸入に依存	枯渇の心配がない国産エネルギー 国内での新規立地は困難	枯渇の心配がない国産エネルギー
経済効率性	発電コストが安い	発電コストが比較的安い 資源価格はボラティリティが大きい	発電コストが安い	発電コストが高い コストの増分は賦課金として利用者が負担
環境適合	発電時にCO_2を排出しない	発電時にCO_2を排出する	発電時にCO_2を排出しない	発電時にCO_2を排出しない
同時同量	定格出力で安定的に発電できる 需要変動に応じた出力制御は不可能	需要変動に応じた出力制御が容易（石炭火力を除く）	需要変動に応じた出力制御が容易（流込式を除く）	自然条件により、出力が安定しない

2030年度のエネルギーミックス
・現在の技術では、単一の電源で「S+３E」と「同時同量」を達成することはできないため、様々な電源を組合せ、お互いの短所を補い合う「エネルギーミックス」が必要となる
・第５次エネルギー基本計画においては、2030年度において以下の電源構成を目指すとしている



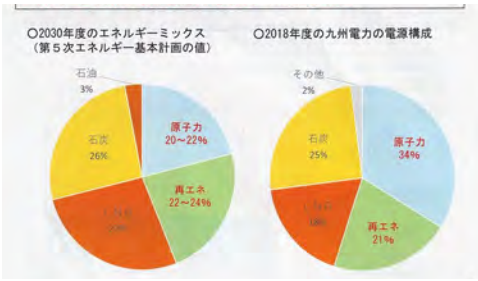
４.九電グループの環境への取組み

再エネ電源の開発
・九電グループでは、地熱、太陽熱、水力、風力バイオマスなど、再生可能エネルギーを200万kW開発（水力を除く再エネルギー開発量は国内３位）
・今後2030年度までに開発量500万kWを目指す計画

再エネ電源の最大限の活用に向けた取組み
・春や秋などの電力需要が低い時期には、太陽光出力が大きい昼間に、供給力が電力需要を上回る状況が発生
・「同時同量」を達成しつつ、再エネ電源を最大限受け入れるため、まずは火力電源等の出力抑制、揚水発電機の揚水運転、連系線を活用したエリア外への送電を行い、それでも供給量が需要を上回る場合に再エネの出力抑制を実施

再エネ電源の最大限の活用に向けた技術開発
　九電グループでは、再エネ電源のより一層の活用のため、電化を推進するとともに大容量蓄電池などの技術開発を実施

2030年度のエネルギーミックスの達成に向けた取組み
2018年の九州電力の電源構成は、原子力・再エネを合わせて54%であり、第５次エネルギー基本計画における非化石電源比率（44%）を上回る。



（参考）
九電グループの環境保全活動及び環境教育
九電グループは、くじゅう坊ガツル湿原での環境保全活動や楽しみながら森の大切さを学ぶプレイフォレストなどの環境教育を実施

【ガバナーアドレス】
硯川昭一ガバナー
アドレスＤＶＤ鑑賞

【寄付カード】
〈Ｒ財団委員会〉
・**葉山会長**　松山会員　新会員卓話ありがとうございました。
〈米山記念奨学委員会〉
・**浦田会員**　10月の米山月間に因んで。
〈人吉ＲＣ奨学基金委員会〉
・**山田会員**　本田さん信友賞受賞おめでとうございます。これからも体に気を付けられ頑張って下さい。

点　鐘　　葉山稔洋　会長